

2002.8.15 No.37

● sapporo

前門様ご葬儀 参拝報告

前門様ご遷化

7月18日 本山総本堂で葬儀

前門主、大谷光照師（第23代門主、勝如上人）が去る6月14日午後1時16分に90歳で遷化された。17日午後零時半から1500人の参列の中「茶毘式」がつとめられ、午後3時前にしめやかに出棺された。

本山葬が18日午後1時、気温33.1度の猛暑中営まれた。

総御堂には、穏やかな表情を浮かべた前門さまの遺影が飾られ、参列した13000人の全国から集まった僧侶、門信徒らは手を合わせてありし日の「前門さま」をしのんだ。

参列者は本堂に入り切れないため、白州の境内、駐車場いっばいにテントとイスを並べモニターテレビで葬儀を見守った。武野以徳総長が「激動の時代を正法の興隆に全力をつくされた遺訓を体し一切のいのちを等しく尊重する道を開きたい」と述べた。

法要が終ると総御堂前に焼香の長い列ができ、参列者一人一人は静かにお念仏し立ち上がる香煙が参列者を包んだ。

又、前門さまの巡教の記録を綴った随筆集「法縁」抄ー勝如上人の90年（本願寺出版）が参列者全員に配布された。前門さまの日記や資料を国内巡教と海外巡教の2部構成で編集され、国内、海外を問わず宗門興隆に尽くされた半生を紹介されている。

前門さまは明治44年、第22代門主大谷光瑞師の弟、光明師と貞明皇后の妹、きぬこさまのご長男としてお生まれになり、昭和天皇とは従兄弟にあられる。昭和2年に15歳で本願寺住職に就任され、第23代門主となりました。世界史にもみない過酷で長い戦争を乗り越え、戦後は宗門の改革にのりだされると、ともに近代化を推し進められ、宗門外におかれても昭和30年から48年までに3回、日本仏教会会長をつとめられました。また、昭和45年ニューヨークにおける世界宗教者頂上会議で仏教徒を代表して国連で演説するなど、平和運動にも貢献されました。



札幌組 定期組会が行われました

札幌組の定期総会が、3月31日札幌市内のロイヤルホテルで、僧侶・門徒37カ寺47名の出席により行われました。

例年のとおり、開会の先立ち「宣誓式」が行われ、竹澤一深副組長の調声により勤行、引き続き門徒議員を代表して光明寺の小池氏が宣誓を行いました。その後、組会が開会となり、組長のあいさつに引き続いて、北広島市興徳寺の藤田憲昭氏が議長に選任され、議事に入りました。内容は、平成13年度各部事業報告・決算、平成14年度各部事業計画・予算等が審議され、いずれも原案どおり承認、あわせて教区会報告が行われました。

議事終了後は、会場を隣りに移して、懇親会が行われ閉会となりました。

書評

『親鸞と一遍』 竹村 牧男 著

定価/2,800円+税 発行所/法蔵館

「それにしても、これほどまでにあらゆる局面において対照的なのは、実に興味深いことである。しかしながら、何と云っても、最も重要な対照的性格は、その念仏思想そのものにおけるそれである。親鸞と一遍の念仏思想は、浄土教の共通の深みを汲みつつも、しかも根本的に対照的なのである。その共通の深みというのは、二人とも自力というものを徹底して否定し、自分で自分をどうにかしなくてもよい、どうにかできるものではない、とはっきり自覚して、阿弥陀仏の本願に帰入しているところである。

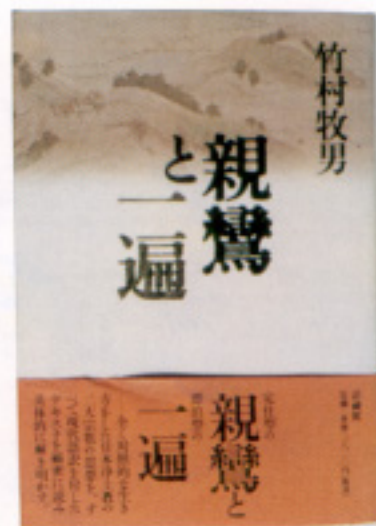
一方、違いといえば、親鸞の信の立場に対して、一遍の信・不信を問わない立場、あるいは親鸞の絶対他力の立場に対して、一遍の自力・他力を超える立場、要をいえば親鸞の信に対し、一遍の名号……」
本書「親鸞と一遍の浄土教」より

私たち真宗学徒の多くは、なにはともあれ聖教を繰り、親鸞に直参しようとしてきた。けれども、どれほど聖人のお心に出遭うことができたであろうか。案外、私たちは「森に入りて森を見ず」で、聖人の懐のなかにおりながら、聖人の実像を知ることなく過ごしてきた一面があるように思われる。

この書は、中世という末法の時代を、阿弥陀仏信仰に生きた二人の生きざま、思想の違いを明らかにしようとしたものである。

定住型、神祇不拝の親鸞、漂泊型、神祇尊重の一遍とさまざまな局面において対照的であることを、二人の著作と生きざまを通して示し、興味のつきない書となっている。

著者があとがきで述懐していることであるが、「一遍と対比したとき親鸞がよく見えてき、親鸞と対比したとき一遍がよく見えてくるという事情は歴然とあって、さらにこの二人をともに考察していくことは、浄土教そのものの理解に多くの深みをもたらしてくれた」一書であった。



教区基幹運動の動き

教区会議員 打本 顕真

本年は差別事件以後行われた組巡回学習会の第Ⅱ期最終年です。基幹運動のなかから「御同朋の願いに応える教学」が提起され、その歩みの元年となる年でもあります。

過去の組巡回で、「煩惱がある限り差別はなくなる」「被差別の側になど立てるはずがない。他人の立場になど立てないというのが真宗の教え」「差別される側にも問題がある。そのことに気づくのが教えに出会うということである」等の意見が繰り返されてきました。

真宗の教えに出遭うということと基幹運動はどのような関係にあるのかを中心に、基幹運動を進める教学についての学びを、本年の組巡回の眼目としています。

「差別を容認し、みずからも差別しつつきてきたあなたの信心とは何か」―被差別の側からの厳しい問いを通して生まれてきたのが、「信心の社会性」です。

しかし、この文言もまた無理解と誤解のなかから抜け出すことができずにいるように思います。従って、今年は運動を通して進めていくことが計画されています。札幌組の日程は未定ですが、多くの人びとの参加を期待します。

なお、教区僧侶研修会は従来二回行われていましたが、本年は十二月四日・五日・六日に二泊三日で開催されます。ご講師は阿満利磨先生と信楽峻磨先生の予定です。お二人の対談も企画中です。いつも、札幌組の参加は、きわめて少ないので、いまから予定に入れておひとりでも多く受講していただきたいと思います。

門徒推進員・連研履修者合同研修会

さる6月23日、1時半より教化センター札幌別院において「門徒推進員・連研履修者合同研修会」が約40名の参加のなか開催されました。宗門では、北海道教区は有数の連研開催教区であり、門徒推進員の数も群を抜いています。今年の講師は元基幹運動本部部長の藤田徹文先生（広島県・光徳寺住職）でした。藤田先生は以前、中央教修（門徒推進員になるための本山研修）の講師もされておられた関係で、先生の教えを受けた方々も多く見受けられました。

研修テーマは「往生浄土を生きる」でした。「浄土真宗の教えは、死んでいいところへ行くのだろうかという安易なものではありません。さまざまな悩み苦しみを抱えた私達が、阿弥陀如来より信心をいただく。その信心をいただいたときに、現生正定聚としての主体的な生き方が開けてきます。すなわち往生は死んでからのことではなく、「今・ここ」においてなのです」という趣旨の法話があり、その後活発な質疑応答がなされました。懇親会では門徒推進員の人達がそれぞれの思いを話しておりましたが、「札幌組にも門徒推進員の会がほしい」という声も今年も上がり、結成へむけて札幌組の皆様のご理解を賜りたくお願いをしまして、報告とさせていただきます。

フ リ ー コ ラ ム

ワールドカップ、ドーム周辺の声

4年に1回のサッカーのワールドカップが日本と、韓国の両国の会場で開催された。国連の加盟数より多い予選を勝ち抜いて札幌ドームで3試合と発表され、にわかサッカーファンでも、「今か今か」とマスコミに囁かされてられながらも心を躍らせていた。

札幌ドームまで600メートルと目と鼻の先に位置する寺院として、来日する人々に多少なりとも日本の文化に触れていただけたらと考え、寺院紹介の英訳のパンフレットを1年前より準備した。

又、豊平区の花「ベチニア」7鉢をプランターに植え歓迎する計画をしていた。

しかし、ドームの試合がフリーガンで有名なイングランドとアルゼンチンと発表されると、「20年前の戦争当事国の戦い、世界が注目する因縁の試合」と報道に煽られるにつれて地元住民の歓迎ムードは怪しい雲行きに成ってきた。

自動車のディーラーを始めガラスばりの店舗は、ネットやベチニア板を張り、展示車を撤去。また、立ち入り禁止の柵や営業休止等の看板まで配置された。

「フリーガン対策すみしましたか」と揶揄されることがワールドカップ試合前日の挨拶になってしまった。

警備の説明会では、「殆どの方は純粋にサッカーを愉しむサポーターです」「万全の警備です」と説明されたが、「万が一のことがあったら…」の声に、「ゴミ箱、自転車、旗竿、…等投げる対象になる物はすべて撤去して下さい」と厳しい警備体制を徹底され自衛の警備体制も確立された。

わが寺も「暴動はあってはならないし、有るはずもない」と思いながら、歓迎の花は総て撤去。又、警察の車を常駐してもらい普段は空け放しの山門の扉も固く閉め、警備に目を光らせた。

イングランドのベッカム、ドイツのオリバーカーン等、有名な選手を目の当たりにする試合であったが、周辺住民は、すっかりフリーガン対策に気持ちを取られてしまった札幌ドームのワールドカップであった。（長尾）

「若坊守会」（仮称）発足準備

今年三月の寺族婦人会総会の折、「子育て中であったり、なかなか外に出ることができない坊守さんや若坊守さん達が気軽に集まれる機会があればいいと思うのですが」と軽い気持ちで発言した所、寺族婦人会々長さんより、「何かいい案がありましたらどうぞ」と心強いお言葉を頂戴いたしました。

さっそく、何人かの方々に声をかけ、五月に一度、食事会を催しました。

集まった方々から、日頃の子育ての悩みや、檀家さんとの関わり方等、同じ環境にいるもの同志、話題は尽きませんでした。

「是非、親睦を中心とした会を」という方向に答えが見えてきました。

七月に二回目の食事会を45才以下の組内寺院の奥様対象にご案内した所、14名中、9名の出席を頂き、札幌組若婦人会発足に向け、細かな点を話し合いました。

趣旨…組内若婦人の親睦を深めること

活動内容…年六回の食事会（奇数月の月末）および各寺院の報恩講参拝 等

入会資格…組内寺院の45才以下の坊守および若坊守（既婚者）

年会費…5000円

幹事…2名

現在のところ、このような所まで固まってまいりましたが、まだ会の名称が決まっておりません。次回の食事会で名称を決定し、改めて、札幌組若婦人会発足のご報告をしたいと思っております。まだ、正式発足前の段階ではありますが、各ご住職様、若院様、先輩坊守様たちから温かく見守っていただき、ゆっくり長く続けていける会にと願っております。

勝圓寺寺号公称百年記念慶讃法要 第4世住職継職奉告法要 報恩講 厳修される

去る、7月5・6・7日の三日間の日程で「勝圓寺寺号公称百年記念慶讃法要」「第4世住職継職奉告法要」「報恩講」が厳修されました。

勝圓寺の開教は、明治27年、一人の僧がこの石狩国当別村にお念仏流布の足跡をつけたことから始まりました。

明治32年、新潟県西蒲原郡の勝圓寺、上山慈眼師が、家族と共に本格的に開教に着手し、同じく35年6月12日に寺号公称を許可されて以来、百年の星霜を数えました。

その間、三代にわたり伽藍と境内の整備、教化伝道に精進し、坊守・ご門徒の皆様と共にこの勝圓寺を築き上げてまいりました。

この度、このご勝縁を機に、住職を第四世に継承し、記念事業委員会を結成し、本堂改築、庫裏・会館増築に着手し、立派に完成した本堂にて三大法要が厳肅かつ、盛大にそして感動のうちにお勤まりになりました。

住職継職奉告法要では、前住職より新住職へ法灯を継承することを表す法要が、また寺号公称百年記念慶讃法要では、あいにくの雨により庭儀ができませんでしたが、128名の稚児により法要を荘厳頂き、喜びを表す法要が勤められ、たくさんの散華により本堂が荘厳されました。この二座の法要は、感動と感激のうちに終了し引き続き、式典・祝賀会も大勢の僧侶と来賓、ご門徒の参加で、悪天候にもかかわらずに盛大に開催されました。

また、若院が三法要に先立ち、得度・入山法要をお勤めされ、前住職・住職・若院と三代が揃うという誠に希有なご縁にご門徒の皆様もお喜びのうちに法要が厳修されました。誠にありがとうございます。



6月9日 福住寺 仏教婦人会創立75周年法要

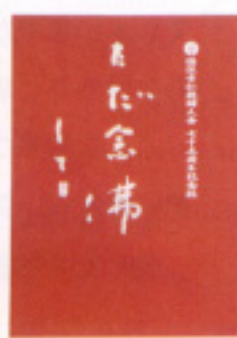
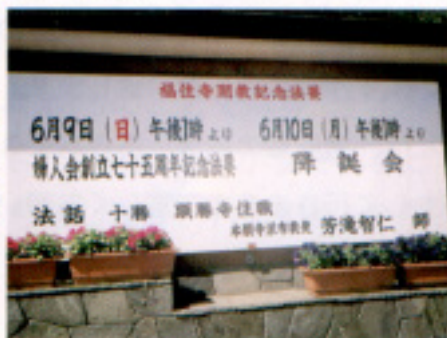
昭和2年2月1日、福住寺第三世長尾美智子坊守（29歳）が往生されたのが機縁に当寺の婦人会が発足されました。発足会員62名。

それ以来、一時休会やむなき時もありましたが、昭和37年に第五世長尾たつ子坊守の基会員106名で再発足し、この度、6月9日に「福住寺仏教婦人会創立七五周年記念法要」並びに、「物故会員総追悼法要」が勤まりました。

会員による献灯、伝供に始まり、法要、記念式典、講演、祝賀会が盛大に催された。

又、記念事業として内陣打敷を寄贈、又、歴代の坊守、会長、会員の足跡を綴られた記念誌「ただ念仏して」が発刊された。

今後も福住寺の教化活動の原動力となっていくことに期待します。



ニューフェイス

浄光寺 青山 直樹

札幌組の皆様、こんにちは。

私は北区新琴似にございます浄光寺衆徒の青山直樹と申します。この度ご縁がございまして浄光寺に入寺いたしました。京都で生まれ育ちましたので札幌に参りまして冬の厳しさには驚きました。今までは、一冬に1度か2度の数センチの積雪しか、経験しませんでした。しかし札幌では冬の間、毎日何度も雪かきをしなければいけません。私の煩惱のように雪は絶え間なく降ります。厳しい長い冬が終わりを告げると人々を和ます梅や桜やまた可愛い小さな花々が一斉にほころび始めます。小鳥の賑やかなさえずりと共に暖かい春が訪れるのです。その移り変わりにはとても感動しました。自然を全身で受け止められる札幌が大好きです。これからは、皆様のお仲間に入れていただき、少しでも早く札幌に溶け込みたく願っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

合掌

* * * * *

松雲寺 竹澤 信也

私は寺坊に帰り御縁を得て福住寺さんの所で法務を勤めさせて頂いてから三年が経ちます。そしてその間、数多くの貴重な経験をさせて頂いております。

今後この経験を活かし役立てていこうと思います。

去年から正信会に入会させて頂きました。何も分からず戸惑ってしまいましたが、これからも参加して行きますので、ご迷惑をおかけすると思いますが宜しくお願い致します。

こんな未熟な私は、諸先輩の皆様にお世話になる事が有ると思いますが、努力して行きますので宜しくお願い致します。

後、社会勉強の方も宜しくお願い致します。

合掌



瑞正寺坊守 小畑 明美

《嫁いでからの想い》

縁あって、寺の住職と結婚をして、はや三十年。そして今、ふと思えますのは、薄暗い部屋で仏壇の前に座り、特大の経本を開き、ゆっくり読み上げていた祖母の姿です。近所のお年寄りときそいあって、お寺参りを楽しみにし、布教使さんの話を孫に聞かせていた祖母。その話にケチをつけては祖母を怒らせた小憎らしい孫だった私。その私もあの頃の祖母の年齢に近くなり、心から喜びをもってお念仏を称えるようになりました。亡き姑をはじめ住職・布教使さん・檀家さん・数多くの方々のおかげと、感謝の気持ちでいっぱいです。



《これからの抱負》

月に一度の常例を楽しみにして居ります。私にとってだけでなく、より多くの檀家さんにとって楽しみである常例になるよう努力していきたくと思います。

うちの坊守さん

大心寺坊守 名和かづ子

《嫁いでからの想い》

子供の就職試験の時、「お寺って忙しいんでしょう。何かあると家族中で手伝うのでしょうか」と人事担当の方に質問されたそうです。家中の手助けを必要とする寺の生活をよく知ってらして、とても感心したことがあります。檀家の方々には、「お蔭様で」と何度お礼申し上げても足りない位、お力を尽くしていただいておりますが、寺の生活は本当に仕事のあるところと思います。

私は、お東の三代目の寺で育ちました。

小学生の時は日曜学校へ行き、又、生活の雰囲気は、お年寄りの方々の聞法の場としてのにぎわいの中でありました。嫁して、寺を守る立場になって、生家の両親の門灯を守り続けた姿勢に尊いものを感じました。

そして、共に生活を始めさせていただいた開基住職と前代坊守の御苦勞を想い、少しでもお手伝いをしなければ、と四十年近く過してまいりました。力不足の私でしたが、平穏な日々を送らせてきたことに、感謝の気持ちでいっぱいでございます。

《これからの抱負》

お年寄りと若い人の中間位の年齢になりました。それぞれ異なる世代の檀家さんに接していて、気軽に聞法に足を運ばれるような寺になってほしいと思っております。

《趣味》

登山、野草鑑賞



札幌組「ホームページ」のリニューアルについてお願い

札幌組のホームページは、立ち上げされてから約1年になろうとしておりますが、この度デザイン等がリニューアルされることになりました。

道内各組のホームページが次々と製作されておりますが、どれも工夫を凝らし、それぞれ特徴あるホームページ作りがされているようです。

情報企画委員会（委員長 長尾光洋）では、今後のホームページ製作において、より充実したものを目指すために、デザインや内容の更新などを業者（光明システム）に一任することにいたしました。これにより、ホームページのデザインが一新されることとなります。

現在、組内寺院のデータ収集をしております。つきましては、各お寺に業者が取材に伺うかと思っておりますので、なにとぞご協力をお願いいたします。

なお、ホームページのリニューアルは9月頃になる予定です。

正信会関連

前号でお知らせした通り、11月25日に45周年記念事業の第一弾として、かでの2・7において演劇公演『再会』をすることになっております。記念事業ということで会員一同、話し合いを重ね、準備を進めている最中です。

この『再会』をたくさんの方々に観て頂きたいと思いましたが、私達、戦後世代の僧侶として、み教えを伝えていく上で戦争を体験してきた有縁の方々との出会いの場を持ちたいと考えたからです。さらには公演を成功することで、後の記念旅行、記念式典へ弾みをつけたいと思っております。

是非、皆様に『再会』を観ていただき、共感する世界を持ちたいと願っております。尚、チケットの予約受付は、会員または久朗津にお申し込み下さいませ。

お問い合わせは

大念寺 久朗津 TEL011-631-9783

日 時/2002年11月25日(月) 14時開場 14時30分開演

会 場/かでの2・7 (大ホール)

札幌市中央区北2西7丁目 TEL231-4111

全席自由席 2,500円

編集後記

今年は、天候が不順で何かすっきりしない日々が続きましたが、この組報が皆様のお手元に届く頃は猛暑となっているのかもしれませんが、これから、組内のご寺院におかれましては、お彼岸、報恩講などの行事が続く事と思います。くれぐれも、お体をご自愛されますようお願い致します。尚、組報に対するご意見・ご要望を引き続きお待ちしておりますので、よろしくお願い致します。